

U-40 部会 presents リレーエッセイ～私たちの体外循環史～

次世代に、繋ぐには

日本体外循環技術医学会 U-40 藤山祐太

はじめまして。今年度から U-40 部会協力隊を拝命いたしました。板橋中央総合病院 臨床工学科の藤山祐太と申します。この度、札幌ハートセンターの吉田様よりご指名を賜り、執筆の機会をいただきました。

体外循環業務に携わって、12 年が経過しました。この 12 年を振り返ると、本当に様々な事がありました。当院は心臓血管外科手術の症例が少なく、手術室業務は体外循環業務だけでなく、様々な機器の対応も行っています。私は体外循環業務にあこがれて臨床工学技士になったため、当初は他業務にやりがいを見いだせず、「いつになったら体外循環業務の習得ができるのだろうか」と不安を抱えながら日々の業務を行っていました。そんな折、当院の体外循環システムの変更に伴い、系列の循環器専門病院で半年間の研修を受けることとなりました。まさに「武者修行」のような日々でしたが、ここでようやく体外循環業務習得への第一歩を踏み出すことができたと思います。

さらに、体外循環の理解が深まるにつれ、いままで実感としてなかったその他の手術室業務にも広い視野を持てるようになりました。当たり前のことだと思われる方もいらっしゃると思いますが、例えば麻酔科ですと手術内容により麻酔方法、バイタル管理、呼吸管理が違うように、手術室での日々の業務も体外循環のヒントになるのではと考え、「多角的な視点」を持つことが現在の自分の体外循環業務のスタイルとなり日々の成長に繋がっています。

若い世代でも一定数、体外循環業務に“憧れ“を持ってくれる人達がいる中で、多くの施設は心臓手術の症例数が安定せず、これが「Perfusionist の狭き門」になってしまっています。また、当時の私の研修「経験＝時間」のような古き良き教育は今の時代に必ずしもそぐわず、これからの世代では認識のズレが出てくるのではないのかと感じています。

今後は近年発展している、AI や IoT を活用した、VR を使った教育によって、時・場所を選ばない新たな教育方法の導入、確立が進むのではないかと思います。今までの教育も含め受けてきた私たちの立場としてできることは、これまでの経験を活かしつつ、Perfusionist を広く次世代へ繋げていけるような教育の在り方について、JaSECT の場をお借りして、広い世代の Perfusionist とともに共有し合い、意見交換を重ねながら向上させていければ、と考えています。